

学生のための安全のヒント

貴重品は絶対に学校へ持参しないこと！ 一日に必要な額だけを財布に入れて持ち歩くこと。携帯音楽プレーヤーなどは本当に学校へ持っていく必要があるかどうか、よく考えてからにしてください。

貴重品に人目を引きつけるようなことはしないこと。携帯電話の新しい着信音を鳴らしたり、iPod で友達に音楽を聴かせることや、新しいバスケットボールシューズがいくらかしたかなどを自慢げに言いふらすと、小耳にはさんだ人から不要な関心を引くこととなります。

貴重品を絶対に置きっぱなしにしないこと。放置したままにすると大概のものは盗まれます。たとえば、カフェテリアで並んでいる間バックパックを席に置いておく、着替え中にジムのロッカールームのベンチに靴を置いておくなどがその例です。このような状況では物が頻繁になくなります。所持品を少しの間どこかにおいておく必要があるときは、ロッカーへ入れて鍵をかけるか、友人または大人にその場に戻るまで見ていてもらいましょう。

ロッカーは常に鍵を掛けておくこと。時間を省こうと鍵を掛けなかったり、最後の数字だけを動かせば鍵が開くようにしておくと、裏目に出る恐れがあります。ダイヤル錠の鍵の番号は誰にも教えないこと。

貴重品を車の中に置いておく場合、盗まれないように気を付けること。車に鍵を掛けても、貴重品が丸見えになるところに置かないこと。取り外し可能なフェイスプレート、CDなどはトランクの中に入れます。自転車も同様に施錠すること。

このほかの盗難予防策として、所持品に自分の ID を記入するか彫り付けます。貴重品の色、メーカー、型、シリアル番号、特徴などを記入したリストを作ると、警察が盗品を取り戻して正しい持ち主に返すのに役立ちます。

多額の現金を持ち歩かないこと。どうしても現金が必要なときは、現金を2カ所に分散して持つこと。

盗難にあった場合は直ちに通報すること。たとえ貴重品を置きっぱなしにした場合でも、誰にもそれを無断で持って行く権利はありません。盗難を速やかに通報すると、学校関係者や警察は泥棒を特定し、盗品を取り戻すことができます。泥棒に責任を迫ることは重要です。窃盗行為が招いた深刻な結末は、今後の人生で盗みが癖にならないように不正行為を改めるのに効果的な措置です。

自分が非常事態に巻き込まれたら、9-1-1に電話をすると消防署、警察、救急車につながります。9 1 1に電話をすると、緊急対応オペレーター、つまり通信指令係が必要な人につないでくれます。英語での通報に自信がない場合は、「Japanese please」といえば通訳につないでもらえますので、母国語で三者通話を介して通信指令係の人に通報することができます。